

難波西鶴

海の道

【97】

森田 雅也

一昨年より、西鶴が江戸時代の西回り航路、九州航路などの「海の道」を情報源として利用し、作品を創作していることを述べてきました。ついに瀬戸内海航路の話となり、昨年は婚路の話までいたしました。

西鶴の「日本永代蔵」(元禄元(1688)年刊)巻二の四「天狗は家名の風車」には、今も続く、西宮神社への「参詣」争いが描かれています。「西宮神社」の公式ホームページには、「今では宵えびすの1月9日の深夜12時に神社のすべての門を閉じて忌籠を行い、10日午前4時の十日えびす大祭を厳修した後、午前6時の大太鼓を台図に表大門が開かれると、待ち構えた参拝者が本殿への走り参りを行い、到

着順に一番福から三番までが福男として認証されま

す」と書かれています。

現在の我々は、「えべっ

さん」の神事を、1月9日

を「宵えびす」、10日を「本

えびす」、11日を「残り福」

として3日間の大祭として

認識し、そのいずれの日

詣でもいいように思っ

ています。しかし、西鶴が記

すところによれば、江戸時

代の「西宮神社」は「十日

えびす」が中心で、9日は

西宮の人々は家に籠もり、

「西宮神社」へおわたり

になる「えびす神」を見ては

いけない日とされ、ホーム

ページにもあるように「忌

籠」の儀式とされています。

## 日本永代蔵 西宮神社えべっさん

た。ですから、10日は「えびす大祭」の神事後、人々は先を争って、福に授かるうとしたわけです。「日本永代蔵」の話も例年、早参りしている和歌山太地の鯨漁師のリーダー「天狗源内」がある年、寝坊して後れをとって、悔しがるという話です。

ただ、現在の「走り参り」ではなく、海路からの一番乗りです。実際、昔は四国などから船で駆けつけていたと伝わりますから、勇壮な西宮浜の光景だったでしょうね。

(関西学院大文学部文学言語学科教授)

# 海路から一番乗り目指す